

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12-25 (電話) 0146-45-0023		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年4月12日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10人、	非常勤 8人、 常勤換算 14.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:800円/日 暖房費:10,000円(10-4月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日あたり		1,300 円	

### (4) 利用者の概要(3月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性	11 名	女性	7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	71 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	静和会石井病院、山田クリニック、静仁会静内病院、山口歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表は「障害や疾病のあるなしに関わらず、全ての人たちが幸福に暮らせる地域社会の実現」を目標に、グループホーム、通所介護、訪問介護、共同生活支援ハウスなど同法人経営の多様な事業所が集約する「福祉村」の運営にあっている。「栗ちゃんの家」は平屋建ての広々とした造りで、木を基調とした落ち着いた温かみを感じさせる建物で浴室やトイレ、洗面所などの設備は利用者の状況に応じて随時改良され使いやすくなっている。共用空間には長椅子が随所に設置され、利用者は2ユニット間のどこにでも自分の居場所を見つけることができる。管理者は「自分の存在そのものがケアでありたい」を信条に真摯なケアを実施し職員を指導している。利用者が「普通に生活できること」という介護理念の文言をもとに温泉への1泊旅行や結婚式の出席などにも利用者が参加できるように支援している。ターミナルケアの充実や他の事業所からの見学者の受け入れ、事業所からの情報発信などに意欲的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」は「栄養バランスについての専門家によるチェック体制」であり、今後も引き続き取り組む予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニットで職員ごとに分担を決め、管理者がまとめたものを全員に示しているが、その後の検討会は行われていない。今後は、取りまとめ後に全職員で意見を交換し合い、内容の理解を深めていくことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度行われ、合同行事、事例発表、避難訓練などをテーマに意見交換し、議事録も整備されているが、サービス評価についての報告や話し合いは行われていない。今後は、会議の席で自己評価の内容を説明し、外部評価の結果を公表し、年1回の評価の効果を高めていくことを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時や運営推進会議の際に家族の意見を聞いており、入所契約書には外部の苦情受付機関を明示している。コミュニケーションを図る機会が多いが、訪問頻度の少ない家族についてはややコミュニケーションが少ないケースもある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の行事などへの参加はまだ少ないが、今年から草むしりやゴミ拾いなどの行事に参加する予定である。事業所が主催するお花見や夏祭り、クリスマスお楽しみ会には自治会の役員を通じて外部に参加を呼び掛けている。近所の方々からは、座布団やおやつ、タオル、花の球根などを届けていただくなどの交流が盛んである。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりとした流れの中で 楽しく一緒に認知症であっても 普通に生活できること」という法人の介護理念とともに、「住み慣れた地域社会の一つと考え、自立した暮らしの支援をする」という理念の説明文がパンフレットに掲載されている。		管理者が法人の理念を補足する位置付けで事業所独自の理念も検討していきたいとのことであり、その取り組みに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所の玄関に入ってすぐの見やすい場所や事務室に掲示しており、パンフレットにも記載している。分かりやすく覚えやすい理念であり、職員は勤務に就く際に事務室や共有空間で理念を復唱し、日々理念に基づいてケアサービスに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事などへの参加はまだ少ないが、今年から草むしりやゴミ拾いなどの行事に参加する予定である。事業所が主催するお花見や夏祭り、クリスマスお楽しみ会には自治会の役員を通じて外部に参加を呼び掛けている。近所の方々からは、座布団やおやつ、タオル、花の球根などを届けていただくなどの交流が盛んである。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットで職員ごとに分担を決め、それぞれが記入したものを会議の席で管理者が集約し、まとめたものを全員に示しているが、その後の検討会は行われていないので職員の理解度については個人差がある。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」は、今後も引き続き取り組む予定である。		自己評価は取りまとめ後に全職員で意見を交換し合い、内容の理解を深めていくことを期待したい。また、外部評価についても検討し改善に繋げていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会副支部長、町の職員、地域包括支援センター職員、家族等が参加して、合同行事、事例発表、避難訓練などをテーマに意見交換し、議事録も整備されているが、サービス評価についての報告や話し合いは行われていない。		今後は、会議の席で自己評価の内容を説明し、外部評価の結果を公表し、年1回の評価の効果を高めていくことを期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のイベントには町長も参加している。また、町の福祉課の担当者と代表が話し合い福祉や介護についての情報を交換し合う機会も多く、運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加して情報を提供してもらったり相談をしたりしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に直接利用者の状況を報告しているほか電話でも報告している。利用者個々の様子を2ヶ月に1度程度手紙で家族に報告している。また、金銭出納の報告は家族が訪問した時に確認してサインをもらっている。職員の異動などについては特に報告はしていない。		個々の利用者の様子を知らせる手紙以外に、事業所全体の様子や職員の異動などを知らせる「便り」の発行を期待したい。また、家族の来訪頻度が少ないケースもあるとのことなので、金銭出納の報告も毎月発送することを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見を聞いており、運営推進会議の際にも家族の意見をもらっている。入所契約書には町の広域連合や国保団体連合会など外部の苦情受付機関を明示している。意見箱を設置しているがあまり利用されていない。また、コミュニケーションを図る機会が多いが、家族によっては訪問頻度の関係でややコミュニケーションが少ないケースもある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間での定期異動は殆どなく職員の離職も少ないため、利用者のダメージは殆どない。現在、利用者がどちらのユニットでも自分の居場所を得られることを目的に、ユニット間で職員を半日ないし1日交換し、全職員で利用者のケアを行う試みを実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	毎週1回夜の時間帯に内部研修を行い、毎回全職員の7割近くが参加している。また、各職員が年に2回程度外部研修に参加しており、研修後は報告会を開催し、研修内容を全職員で共有化するようにしている。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	現在、地域の2つのグループホームの職員が、年間7、8人程度、2、3日間、実習のために事業所を訪れているので、職員同士の交流の機会は多い。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居希望者及び家族は事前に見学を訪れて納得の上で入居を決めている。部屋が空いている時はショートステイを行った後に入所を検討することが可能である。入居後は担当の職員が日常の世話をし、利用者が環境に馴染めるまでサポートしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	温泉と一緒にいった時には利用者が「また、来年も連れて行ってね」と喜んでくれたり、目薬の点眼をしたり薬を渡した時に利用者から「ありがとう」「お世話になります」など頻りに感謝の言葉をもらっており、職員はその言葉で癒され、励まされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が普段と異なった行動をとった時はケース会議や申し送りで話し合い、全職員で共有する仕組みとなっている。また、家族からの情報をもとに利用者ごとにセンター方式のアセスメントシートや生活史シートを作成し、利用者の生活歴や情報を蓄積している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望と家族からの情報をもとに、1週間を目途に暫定計画を作成し、1ヶ月後にカンファレンスで職員の意見を聞き介護計画を作成し、家族に説明してサインをもらっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の意見や要望を聞きながら全職員で話し合い、毎月のモニタリングをもとに3ヶ月ごとに介護計画を見直している。入退院などで利用者の状況が変化した時は随時見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人経営の他の事業所で使用しているワゴン車や車椅子対応の車両を利用して、通院や買い物の支援、外出行事などを行っている。また、孫の結婚式や理美容院へ同行するなど柔軟な支援を行っている。遠方に住んでいる家族が訪問した際は、食事や寝具などを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は従来からのかかりつけ医や希望する医療機関を自由に受診できる。協力医療機関の内科医師による訪問診療が月2回行われ、看護師も随時訪問して利用者の健康管理を行っている。歯科、眼科、かかりつけ医の受診には希望に応じて職員が付き添っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末ケアに関する指定書」を作成して、利用開始時に利用者と家族に説明を行い、意向を確認して署名と捺印をもらっている。ターミナルケアに向けて家族・医師との連携を密にして安心して終末期を迎えられるように支援しており、事業所開設時より多数看取り介護を行った実績がある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は事業所内で排泄など利用者の誇りに関わる言葉かけや記録物の取り扱いについて気になった時はその都度職員に注意しているが、徹底するまでには至っていない。また、面会簿は現在一覧表形式になっているが、記載を強制するものではなく自由記載となっている。		利用者のプライバシー・誇りへの配慮や個人情報の取り扱いに対して職員全員で話し合いを行ったり、個人情報についての勉強会を行うことで更なるケアの充実を期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、食事時間や入浴時間など利用者のペースを尊重している。個々の状況を把握して、無理強いしないで利用者の希望に沿って過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや下膳など利用者に来ることは手伝ってもらっており、利用者と職員は会話しながら楽しく同じ食事を摂っている。山菜など、利用者と職員とで収穫したものや近所のいただきものを食卓に乗せ季節感を味わっており、誕生会には好物のメニューを取り入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間帯に週2回以上入浴できるように支援しているが、利用者が希望すれば、午前中でも毎日でも入浴することができる。年1回の温泉への1泊旅行も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下膳や食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみなど利用者に応じて役割を持ってもらっている。カルタやトランプなどのゲームや、テレビやDVDを見て楽しんだり、外食や温泉旅行など行事も多い。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の天気の良い日は毎日でも近隣の公園を散歩したり、他のグループホームを訪問したり、ドライブを楽しんだりしている。冬季は月に2～3回ドライブに出かけたり、大型ショッピングセンターで外食をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関と裏玄関にチャイムを付けて利用者の出入りを把握している。居室は本人が希望すれば施錠できるようになっているが、すぐ開けられるような造りになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主訓練と消防署の協力の下、昼夜を想定した避難訓練が行われている。今後は2ヶ月ごとに自主訓練を行う予定である。運営推進会議では、避難訓練に地域の協力をお願いしている。救急救命訓練については法人の主催で毎年行われている。		地域と協力して避難訓練を行うことが実現できるよう期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日個別に記録して、利用者一人ひとりの健康状態を把握している。昨年の取り組み事項である栄養バランスについての専門家によるチェックはまだ実施されていない。		昨年に引き続いて、献立を年1回程度管理栄養士などの専門家にチェックしてもらうことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、広くて明るく、カウンター越しに食事の支度をする様子が見られ楽しい雰囲気を感じられる。浴室やトイレ、洗面所などの設備は利用者の状況に応じて随時改良され使いやすくなっている。共用空間には長椅子が随所に設置され、利用者は2ユニット間のどこにでも自分の居場所を見つけることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口に顔写真と手作りの表札をかけることで、利用者が自分の部屋を認識しやすいように工夫がなされている。利用者は使い慣れた筆筒やテーブル、仏壇などを持ち込み、壁には家族の写真や装飾品が飾られており、落ち着いて過ごせる場所となっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。